

平成30年度 学校経営計画及び自己評価

1 めざす学校像

「人間教育をする進学校」

本校は創立109周年を迎えた。建学の精神「報恩感謝」を柱とした宗教的情操教育の良き伝統を堅持し、男女を問わず、周囲に感謝して生きる喜びを感じ、何事に対しても前向きに取り組むことができる、そしてグローバル化する社会で活躍、貢献できる「品格と礼節」を備えた生徒を育成する。

- ① 建学の精神の涵養 ー宗教的情操教育を堅持し、我国の伝統と文化に基づく「品格と礼節」を備えた人間を育成する学校ー
- ② 安心安全な学校づくり ー学校は、生徒たちが安心して夢を実現するための準備をする安心安全な学校ー
- ③ 確かな人間力の育成 ー高い志を培うとともに生徒の進路希望を実現する学校ー
- ④ さらなる特色づくり ー各コースの教育内容のさらなる充実を図り、生徒・保護者に期待される学校ー

2 中期的目標

- 1 建学の精神の涵養 ー宗教的情操教育を堅持し、我国の伝統と文化に基づく「品格と礼節」を備えた人間を育成する学校ー
 - (1) 宗教行事や宗教の授業において、建学の精神を理解させる
 - (2) 日々の朝礼・終礼、講堂朝礼を徹底し、東大谷生としての自覚、感謝のこころを育む
 - (3) 花まつり、報恩講、了秀忌等の宗教行事だけでなく、すべての学校教育を通して建学の精神「報恩感謝」の念を育む
 - (4) 全教職員に対して本校の宗教的情操教育のあり方を常に確認・共有し、全教員一致して教育にあたる
- 2 安心安全な学校づくり ー学校は、生徒たちが安心して夢を実現するための準備をする安心安全な学校ー
 - (1) 防災対策・危機管理体制を整え、生徒が常に考え行動できる指導を徹底する
 - (2) 伝統の生活指導を徹底し、グローバル化する社会に必要なマナーを身につけさせる
 - (3) 教育相談体制、メンタルサポート体制を充実させるとともに、生徒の個性に応じた身体と心の健康づくりを進め、安心・安全な学校づくりを推進する
 - (4) 家庭への情報発信を密に行い、学校・家庭が一体となった教育を徹底する
 - (5) 地域の幼・小・中学校、自治会等との連携をすすめ、地域とともに生徒の成長を育む教育を推進する
- 3 確かな人間力の育成 ー高い志を培うとともに生徒の進路希望を実現する学校ー
 - (1) 生徒が主体的に学ぶことができる授業改革を進め、高い志を育むとともに、「人間教育をする進学校」という評価を定着させる
 - (2) 本校独自の取り組みである「学びのNEW STYLE」の充実と教員の授業力の向上をはかる
 - (3) グローバル化が進む社会で活躍する人間の育成のために、授業におけるICT機器の活用を図り、国際理解教育を推進する
 - (4) 教職員の授業力の向上を最重要課題とし、公開授業、研究授業のほか時機を得た適切な研修を取り入れる
 - (5) 生徒会活動・学校行事や部活動を通して、仲間とともに創造する喜びと困難を乗り越える力、リーダーシップを育む
- 4 さらなる特色づくり ー各コースの教育内容のさらなる充実を図り、生徒・保護者に期待される学校ー
 - (1) 大阪大谷大学との高大連携をすすめ高大一貫の教育をめざし、大学卒業までを見据えて生徒自らが意欲を持って学習できる体制を作る
 - (2) オーストラリア海外語学研修や短期長期留学制度を充実させ、積極的な国際交流を図る。豊かな語学力に裏付けられた国際感覚を育成できる体制を作る
 - (3) 外部受験において生徒が目標をかなえられるよう、教員が連携し一人ひとりの生徒にきめ細かい指導を行う体制を作る

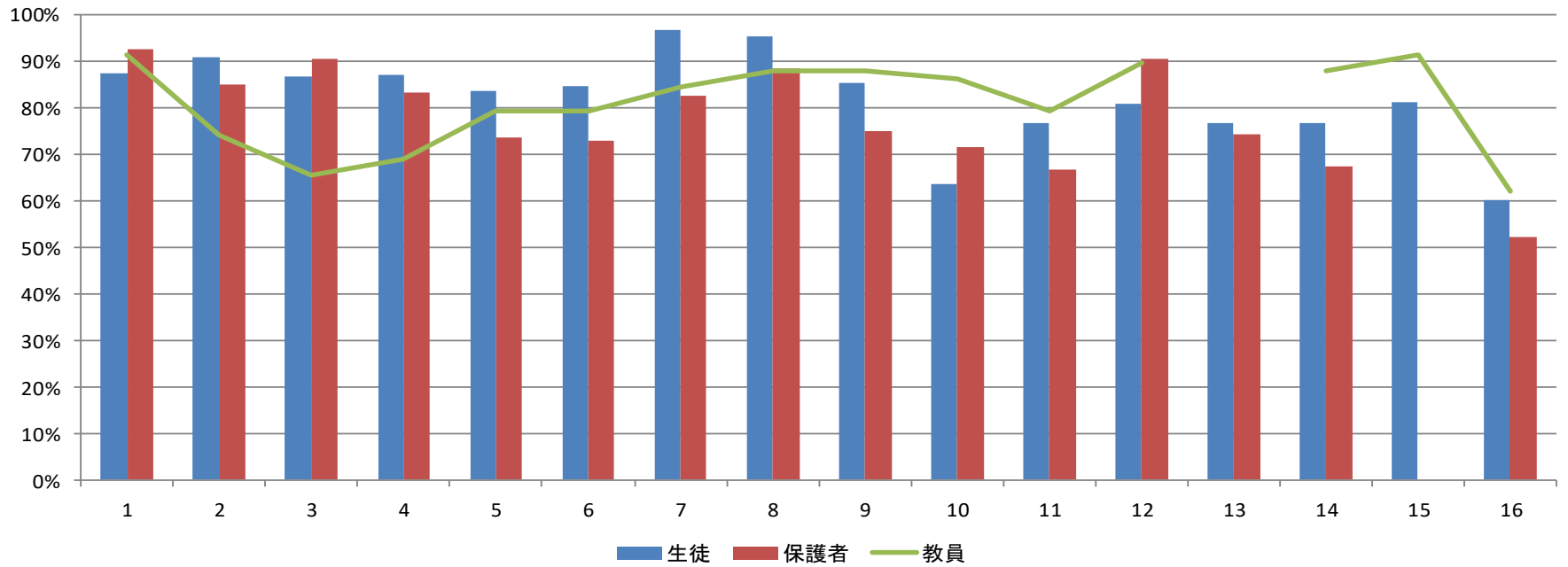
【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会における提言内容】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校協議会における提言内容
<p>生徒保護者教員に共通して「自主的な学習」の項目が低評価となった。学校として生徒に自ら学習に取り組めるよう、10年未来プロジェクトの充実を図り、やらされる勉強からの脱却を図ること、またスケジュール帳活用を励行し計画的な学習態度の育成に努める必要があり、本校の第一の課題である。</p> <p>保護者からは多くの項目で昨年並みの評価を受けた。「建学の精神」「学校安全」「総合評価」では90%を超えたが、「学校行事」「部活動」「授業のわかりやすさ」で評価が下がった。</p> <p>生徒からは多くの項目について昨年度より上回り、特に「総合評価」では80.9%と改善が見られた。しかし「授業のわかりやすさ」の項目は厳しい評価となった。学期末に実施する「授業アンケート」からの振り返りと改善に全教員で取り組む必要がある。</p> <p>教員からは「情報公開」で大幅に改善したが、その他の多くの項目で昨年度を下回った。学校としての様々な方針を明確に示していくことで理解を得たい。</p> <p>総合評価としての設問12は前回保護者生徒で評価の乖離が見られたが今回はほぼ同評価を得たといえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東大谷には「探究ゼミ」「10年未来プロジェクト」「宗教」などの積み上げにより、独自のアクティブラーニングを行う環境ができています。この手法を各教科でどのように活かすかが次の課題である。 ・主体的な学びについては、実践している生徒を理想像として他の生徒を近づけるような方策が必要である。 ・高大連携はメリットが多い。大学の内容を中学生にも示していけば今後良いアピールとなる。 ・宗教的情操教育は東大谷の一番の柱である。しっかり継続していくべき。中学生やその保護者からは「落ち着いている・礼儀正しい・安心」などの評価が多く、宗教的情操教育がしっかりと認識されるようになってきた。ここに進路実績が伴えばさらに評価は高くなるので頑張ってもらいたい。 ・授業アンケートについては、実際の授業力を知る指標とするために「生徒への主旨の周知」「設問項目の検討」をすべきである。また、アンケート結果が活かされるよう、研修を実施するなど教員の意識改革も必要である。

2018年度 学校教育自己診断 結果

	回答\設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
生徒	そう思う	342	461	320	387	292	310	492	476	295	184	257	314	373	168	227	176
	多少そう思う	424	334	440	376	441	431	357	360	453	372	416	397	298	504	487	351
	あまりそう思わない	85	70	103	89	126	116	28	29	107	223	156	114	146	178	143	270
	そう思わない	25	12	14	27	20	21	2	14	24	97	50	54	60	27	22	82
	肯定的評価の割合	87.4%	90.6%	86.7%	86.8%	83.4%	84.4%	96.6%	95.1%	85.1%	63.5%	76.6%	80.9%	76.5%	76.6%	81.2%	60.0%
	(昨年度)	82.2%	84.7%	80.9%	80.6%	79.1%	78.5%	93.1%	88.0%	76.1%	85.4%	76.3%	71.4%		81.7%	79.6%	71.1%
保護者	そう思う	346	231	298	263	206	190	244	277	168	168	147	369	298	88		144
	多少そう思う	355	415	386	371	353	362	384	392	397	372	358	319	265	419		252
	あまりそう思わない	57	101	61	111	179	189	116	76	153	173	210	52	159	209		270
	そう思わない	1	13	13	17	21	18	16	13	37	44	44	20	37	39		95
	肯定的評価の割合	92.4%	85.0%	90.2%	83.2%	73.6%	72.7%	82.6%	88.3%	74.8%	71.3%	66.5%	90.5%	74.2%	67.2%		52.0%
	(昨年度)	92.9%	71.8%	84.5%	84.7%	75.5%	77.3%	84.6%	87.9%	77.9%	91.2%	81.5%	91.3%		82.9%		71.3%
教員	そう思う	26	12	7	7	11	12	16	23	25	22	17	16		15	15	7
	多少そう思う	27	31	31	33	35	34	33	28	26	28	29	36		36	38	29
	あまりそう思わない	5	13	20	13	12	12	8	7	7	8	10	6		7	5	22
	そう思わない		2		5			1				2					
	肯定的評価の割合	91.4%	74.1%	65.5%	69.0%	79.3%	79.3%	84.5%	87.9%	87.9%	86.2%	79.3%	89.7%		87.9%	91.4%	62.1%
	(昨年度)	92.2%	54.9%	74.5%	74.5%	74.5%	86.3%	92.2%	94.1%	94.1%	92.2%	82.4%	94.1%		90.2%	94.1%	68.6%

肯定的評価(そう思う・多少そう思う)の割合



学校評価アンケート設問

		生徒	保護者	教員
設問1	学校運営	学校は建学の精神に基づいた特色ある教育を行っている	学校は建学の精神に基づいた特色ある教育を行っている	建学の精神に基づいた特色ある教育が行われている
設問2	学校運営	学校からの情報や資料は保護者に見せている	学校からの情報公開は適切でよく連携が取れている	保護者への情報公開は適切でよく連携が取れている
設問3	学校運営	地震や火事などの災害時に取るべき行動がわかっている	学校は危機管理や安全対策に努めている	防犯, 防災, 安全管理への対策が十分整っている
設問4	進路指導	自分の進路希望に応じた科目選択ができている	子ども自身の進路希望に応じた科目選択ができる	各自の進路希望に応じた科目選択ができる
設問5	進路指導	進路に関するきめ細やかな指導が行われている	学校は進路に関するきめ細やかな指導を行っている	進路に関するきめ細やかな指導が行われている
設問6	進路指導	進路に関する情報は十分に知らされている	学校は進路に関する十分な情報を提供している	進路に関する十分な情報を提供している
設問7	生活指導	挨拶や礼儀, 登下校時のマナーなどをきちんとしている	基本的な生活習慣が身につく生活指導が行われている	基本的な生活習慣が身につく生活指導が行われている
設問8	生活指導	生徒同士の人間関係は良好である	生徒間に好ましい人間関係が構築されている	生徒間の好ましい人間関係の構築に努めている
設問9	生活指導	先生は生徒の悩みや問題に対して丁寧に対応している	子どもの悩みや問題に対して丁寧に対応している	生徒の悩みや問題に対して丁寧に対応している
設問10	特別活動	学校行事は生徒が楽しく行えるように実施されている	学校行事は子供が楽しく行えるように実施されている	学校行事に積極的に取り組ませている
設問11	特別活動	本校の部活動は盛んである	本校の部活動は盛んである	部活動の指導には熱意をもってあたっている
設問12	総合評価	本校に入学してよかった	子どもを本校に入学させて良かった	生徒は充実した学校生活を送っている
設問13	目標	将来の夢や目標を持っている	子供は将来の夢や目標を持っている	
設問14	学習指導	授業は全体的にわかりやすい	子どもは総じて「授業はわかりやすい」と感じている	生徒は熱心に授業を受けている
設問15	学習指導	先生は授業の指導方法や内容に工夫をしていると感じる		授業の指導方法や内容に工夫をしている
設問16	学習指導	課題以外に予習復習などの家庭学習に取り組んでいる	子どもは課題以外に予習復習などの家庭学習に取り組んでいる	生徒に自ら学ぶ習慣を身につけさせている

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 建学の精神の涵養	(1)宗教的情操教育による豊かな人間性の涵養 (2)伝統の継承	①宗教担当教員と担任が密に協力して、朝・終礼、講堂朝礼指導を堅持し、宗教作法を身につけさせる ②職員宗教研修を年2回実施し、教職員全員で宗教的情操教育を進める ③宗教委員に宗教行事の運営に参画させる ④4月に1年生の宿泊研修を実施し、東本願寺参拝を組み込み、東大谷高校のルーツを体得させる ⑤同窓会と連携し、文化祭等で本校の歴史を実感させる展示を行う	①管理職による点検 生徒評価90% ②実施実績 教員評価100% ③参画実績 ④生徒感想文 ⑤実施実績	①朝終礼を中心に全教員で取り組んだ。学校教育自己診断では保護者評価92.4%、生徒評価87.4%とわずかに目標に届かず。(△) ②年度当初に研修を1度実施。理事長による研修は実施できず。教員評価91.4%(△) ③宗教委員を講堂朝礼運営当番に指名して実施(○) ④宗教行事毎に感想文集「聞思」を発行し、生徒・教員で振り返りを実施。研修会感想文には「宗教を通じて何を学ぶかがわかった」「東本願寺では厳粛な気持ちになった」などが多い。(○) ⑤文化祭において「もうすぐ100歳！東大谷成美会」と題して展示を行い、多数の生徒保護者が来場し卒業生との交流を深めた。(○)
2 安心安全な学校づくり	(1)日常から安心安全に対する意識を持たせる (2)自律的生活習慣の確立 (3)マナー指導、しつけ教育の徹底	①防災マニュアル・危機管理マニュアルを見直す中で全教職員で再認識し、防災危機管理意識をさらに高める ②安全に対する意識の向上を図るため、防災避難訓練や薬物乱用・SNS利用についての講演会の内容を充実させる。特に今後ICTを多用するために情報モラルに関する知識とモラルの順守に取り組む ③登下校指導、服装指導等、社会でのマナーを身につけさせるために生活指導部を中心に全教職員で取り組む ④メンタルサポート体制の強化 ⑤保護者に学校情報を伝えるために、家庭との緊密な連絡体制を持続し、ホームページの充実を図る ⑥生徒主体に地域活動に積極的に参加する	①教員評価80% ②生徒評価85% ・生徒感想文 ③生徒評価95% ④生徒評価80% ・長期休業後に提出される保護者意見 ⑤保護者評価80% ⑥地域活動参加実績	①安全対策に対する教員評価は65.5%と目標に届かず。次年度に向けて備蓄の充実を図る必要あり。(×) ②生徒評価は86.7%(○)次年度はさらに安心安全な学校をめざす。 ③登下校指導を継続実施するとともに、折に触れて講堂朝礼や終礼放送でマナーの徹底を促す。生徒評価は96.6%と良好(○) ④保健室の2名体制化により生徒の把握が充実し、生徒評価が85.1%(○)次年度は90%をめざす。 ⑤ホームページの充実とフェアキャスト(家庭連絡システム)の運用により保護者評価も85.0%と改善をみた。(○) ⑥部活動を中心にみはらまつり・三原文化祭等に参加、また清掃活動(風紀委員)を実施し、評価を受けた。(○)
3 確かな人間力の育成	(1)「学びのNEW STYLE」の推進 (2)主体的な学習態度の育成 (3)リーダーシップの育成	①2020年問題に向けて「10年未来プロジェクト」「探究ゼミナール」等本校独自のアクティブラーニングと、教科でのアクティブラーニングの充実を図り、学ぶことの楽しさを教え、学ぶ意欲を育む ②学習支援システムを導入し、生徒の自主学習能力を高める ③生徒会活動・部活動への積極的参加を促し、さらなる活性化を図る ④部活動では地域の小中学校との交流を通じてリーダーシップを育み競技に対する意識の変革をもたらす ⑤ボランティア活動を通じて社会に貢献する	①生徒評価80% ・「探究ゼミナール」プレゼン生徒感想 ②生徒評価80% ③部活動活動実績 生徒評価80% 生徒会活動実績 生徒評価90% ④活動実績 ⑤活動実績	①生徒感想は「探究ゼミナール」について「自分の力で完成して満足」「プレゼンテーションは緊張したが自信になった」等あるが、生徒自主学習評価は60.0%と教科学習に生きていない。学校協議会の提言にもある通り、教科での運用を検討する必要あり。(×) ②前回と設問の仕方を変更したためか生徒評価は60.0%と前回に及ばず。生徒への働きかけを再考する(△) ③生徒評価行事63.5%、部活動76.6%と目標に届かず。(×)設問内容についても検討を要する。 ④三原台中学校インターンシップ受け入れ。バトン部・ダンス部・吹奏楽部・美術部・書道部が地域の夏祭り・文化祭等に多数出演・出品を行い、地域住民と交流した。また地元のウォークラリーの会場として本校を提供し、手伝いの吹奏楽部員が交流を深めた。(○) ⑤学期に1度学校周辺の清掃活動を実施、また生徒有志が泉ヶ丘クリーンキャンペーンに参加した。文化祭においては震災復興支援の物品販売に協力した。(○)
4 さらなる特色づくり	(1)大谷学園の強みを活かした教育力向上 (2)各コースでの特色をさらに充実させる	①大阪大谷大学との教員交流を推進し高大連携を強化し、本校教員の教育力向上を図る ②進学コースでは、薬剤師育成プログラムがスタート。新たに教員育成プログラムを策定する ③国際コースでは、長期・短期留学制度を充実させるとともに、帰国生徒に8限授業(英語村)を実施し4技能の向上を図る ④特進コースでは、綿密な3年間の指導計画を構築し、国公立30名、関関同立100名の進路希望を実現する ⑤入試説明会等において生徒の声を伝えることでより多くの情報を受験生保護者に発信する	①管理職による点検 ②プログラム実施状況 および策定進捗状況 ③留学生数 ・検定試験合格実績 ④合格実績 ⑤説明会アンケート ・中学校・塾からの意見 ・志願者数800名 ・入学者数300名	①高大連携プログラムを通じて薬学部・教育学部の教員との交流が深まり、相互理解も進んだ。(○) ②本実施を41名で開始、特別セミナーを実施。教員育成プログラムは教育学部教授と策定中。(○) ③NZ留学者は28名と昨年より増加。(○) ④国公立大合格者10名と昨年より増加するも目標に届かず。3年間を通じた指導計画の策定が急務である。(△) ⑤昨年同様説明会にて生徒スピーチを実施し、アンケート回答でも高評価を得た。志願者数857名、入学者数338名であった。(◎)